

平成26年度事業報告

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

事業の状況

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村氏の想いを実現するため、平成26年度も関係各方面の方々のご支援とご協力により以下の事業活動を積極的に展開し所期の成果を収めました。

また、平成23年度から始めた東日本大震災復興支援事業にも引き続き積極的に取り組みました。

1. 科学技術の研究開発助成

1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成する事業です。平成26年度は審査委員会の推薦に基づき22件(総額327,770千円)の助成を決定し、平成26年8月5日及び平成27年2月13日に、財団本部において助成金を贈呈しました。

2) 復興支援 新技術開発助成

平成23年3月に発生した東日本大震災で被災したものづくりに携わる中小企業の速やかな復興を支援する為、平成23年度から本助成を行いました。

平成26年度は審査の結果、助成対象はありませんでした。

3) 復興支援 特定研究助成

上記被災中小企業向け新技術開発助成と共に、震災復興に向けての緊急且つ重要課題解決のため復興支援特定研究助成を行いました。平成26年度は、審査委員会の推薦に基づき5件(総額14,880千円)の助成を決定し、平成27年2月18日に大手町の経団連会館において助成金を贈呈しました。

2. 科学技術の顕彰と国際技術交流

1) 新技術顕彰(市村産業賞、市村学術賞の贈呈)

わが国の科学技術の進歩、産業の発展、その他国民生活の向上に関し、産業分野あるいは学術分野の進展に多大の貢献をされた方を顕彰する事業です。

平成25年度の第46回市村賞は、本賞、功績賞及び貢献賞合わせて14件(総額65,000千円)を決定し、平成26年4月18日にホテルオークラ東京において

贈呈式を行いました。

また、平成26年度の第47回市村賞は、審査委員会の推薦に基づき、産業賞では、本賞1件、功績賞2件、貢献賞5件、学術賞では功績賞2件、貢献賞5件の合計15件（総額70,000千円）を決定しました。

2) 国際技術交流(国際研究集会参加及び国際研究集会開催への助成)

国際研究集会参加助成は市村学術賞受賞者が受賞技術に関わる国際会議、国際研究集会に出席する場合、渡航旅費を5年間に2回まで助成する事業で、平成26年度は11件（総額7,964千円）助成しました。また、市村学術賞受賞者がわが国において開催する国際会議等を積極的に行なうための支援として平成21年度からはじめた国際研究集会開催助成は、平成26年度は2件(総額6,292千円)助成しました。

3. 科学技術の創造性育成

1) 市村アイデア育成（市村アイデア賞の贈呈）

次代をになう小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するため、独創的なアイデアを募集し、優れたものを表彰、奨学金を交付し、科学への追求、創造への意欲を高めるよう育成する事業です。

第45回市村アイデア賞の応募総数は26,761件でした。審査委員会の推薦に基づき、その中から個人賞として文部科学大臣賞1件、市村アイデア優秀賞1件、朝日新聞社賞1件、朝日小学生新聞賞1件、朝日中高生新聞賞1件、科学技術館館長賞1件、市村アイデア記念賞6件、市村アイデア奨励賞25件、佳作50件、努力賞25件を、団体賞として最優秀団体賞1件、優秀団体賞2件、奨励団体賞3件、努力団体賞7件を決定しました。

平成26年11月21日に北の丸の「科学技術館」に於いて表彰式を実施し、賞状、トロフィー、奨学金を贈呈しました。また、佳作に対し楯、努力賞に対し賞状を贈呈し表彰しました。なお、個人賞の奨学金と団体賞の賞金の合計は3,730千円でした。

2) 復興支援理科教育助成

昨年に引き続き東日本大震災で被害を受けた小・中学校の理科教育が停滞しないよう復興支援理科教育助成2014を行いました。審査委員会の推薦に基づき理事会にて小・中学校67校(総額15,302千円)の助成を決定し、平成26年8月22日に助成しました。

3) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などをおして、科学の原理を楽しみながら理解し、科学技術への興味、意欲を高めることをねらいに(公

財) 日本科学技術振興財団との共催、文部科学省、朝日新聞社、朝日学生新聞社の後援、(株) リコーの特別協賛で「かがく・夢・あそび」をスローガンにワークショップを実施しました。

平成26年度は、半日コースを平成26年11月21日市村アイデア賞の表彰式後に北の丸の「科学技術館」で実施し、小・中学生37名を含む保護者・引率の先生など合わせて約100名が参加しました。冬休み1日コースは平成26年12月13日、14日に「二戸市シビックセンター(岩手県)」(二戸市教育委員会、リコージャパン(株) 本社・岩手支社・青森支社の特別協賛を得て) で小・中学生62名、保護者7名が参加し実施しました。また春休み1日コースは平成27年3月14日、15日に北の丸の「科学技術館」で行い小・中学生62名、保護者35名が参加しました。

4. 植物研究助成

第23回植物研究助成は、22件(29,790千円)を平成26年5月16日に植物研究園において贈呈しました。

また、第24回植物研究助成は、審査委員会の推薦に基づき、23件(33,370千円)の助成を決定しました。

5. 講演会の開催

市村賞受賞者の業績についてより多くの方々に知っていただくため、産業賞受賞記念講演会として平成26年7月31日に産業賞・貢献賞受賞の新日鐵住金(株)石原、小泉、後藤氏による「鉄道車輛の振動制御装置アクティブサスペンション」の講演を(株)リコーのリコーテクノロジセンターにて、又先端技術講演会として平成26年11月18日に学術賞・功績賞受賞の広島大学大学院松本眞教授による「あなたの使っている乱数、大丈夫」の講演を(株)リコーの中央研究所にて開催し、両講演会ともに多数の方に参加いただき好評でした。

以上